

---

# 極東無双

NowLoding

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

極東無双

### 【コード】

N9997F

### 【作者名】

NowLodding

### 【あらすじ】

元漢女道亜細亜方面継承者、卑弥呼の弟「須佐」が主人公。漢女だらけの倭国からわたってきた彼が織り成す新たな外史が此処に。

## 第零席 東より来る者

「ふうむ、大陸か……懐かしい。行くぞ須佐」

小船から二人の人間が飛び出す。一人は禪を穿き、上半身は薄い生地で作られた白い胸当てにネクタイのみという十人が見れば十人も化け物というような姿をしていた。

それに対し、須佐と呼ばれた男は和服を着、腰に刀を差していた。

「それにしても、そのように自らの体を不必要に隠すなど漢女として恥ずべき事だぞ」

そんな須佐の姿に片方の男は文句を言う。

「何度もいわせんな卑弥呼。俺は漢女とかいう不気味な存在に成り下がるつもりはねえ」

「むう、わが弟ながら嘆かわしい」

「どうでも良いが、大陸に着いたんだ。俺はもう行くぞ」

須佐は卑弥呼の戯言に関心を示さずさっさと歩き出す。

「むう、共に行く気は無いのか？」

卑弥呼が引きとめようとするが、須佐は歩みを止めない。

「あいにくと兄貴一人でも手に負えねえのに更に漢女が殖える旅についていく気にはならないな」

卑弥呼とその弟須佐は、倭国の王とその補佐役であった。しかし、ある日突然卑弥呼が昔の弟子に会いに行く大陸に行く事を決め王位を後継者の壱与に渡してしまった。

本来なら須佐は壱与の補佐役として残る筈だったが、これ以上

周りに漢女が居る環境は耐えられないと卑弥呼の大陸行きに同行することになった。

こうして、卑弥呼は弟子に会いに行く為、須佐は漢女だらけの環境から逃げる為目的を別としながらも大陸に行くこととなった。

そして、大陸についた以上もはや共に行動する必要は無いとばかりに須佐は一人で歩き出す。

そんな須佐を見て、卑弥呼も共に行くことは諦め須佐とは別方向に歩いていく。

## 第一席「始まり」

後漢、漢王朝の腐敗によって国は大きく乱れていた。

宦官達は民を省みず己の私腹を肥やす事のみに従事し、民は餓え苦しんでいた。

やがて、餓えや疫病などにより苦しんでいた人々はより力の無いものからの搾取を始める。

盗賊や山賊が跋扈するようになってしまったのだ。

当然、官軍に彼らを取り締まるだけの力は無く、国の腐敗による“つけ”は全て力ない人々に押し付けられてしまっていた。

だからこそこれはほぼ必然であった。

須佐は筋肉がついていないわけではないが筋肉質な体をしているわけではない。おまけに一人で歩いている。

山賊にとってみればもつとも襲いやすい人間に見えたのも無理はない。

特に、此処幽州では最近盗賊達が勢いを増している場所でもあった。勢いづいた盗賊達の目の前に対して強そうにも見えない一人の男が現れればすることは唯一つ。

「よお兄ちゃん。ずいぶんといい着物着てるじゃねえか」

即ち、追いはぎ。須佐は倭国では王族であった為着ている和服も一般の物よりは質が良い。

盗賊にしてみれば鴨が葱を背負って来たようにしか見えなかった。

「で、いきなりで悪いんだけどよ……金になるもん全てよこしな。

そつすりや命だけは助けてやるよ」

山賊達は3人で須佐を取り囲み刀を突きつけて須佐を脅す。

「これがこの国の現状か。此処までいくと周りが漢女だらけのぼうがもしかしたら平和……って事も無いか」

しかし、須佐の態度は山賊が予想した怯え、命を請う姿とはかけ離れていた。

まるで呆れ切ったようなため息をつく須佐に山賊達は怒りをあらわにする。

「おい、兄ちゃん。あんまりわけ解んねえ事言っていきがつてんじやねえぞ。

あんまり調子乗ってると……殺すぞ」

山賊にしてみればそれは脅しだったのだろう。事実、一瞬の為を作つて凄みながら刀を持つ手に力を入れればどんな奴でも怯え、命乞いをしだした。今まで男はこつやつて追剥行為を成功させてきていた。

「…十点だな」

しかし、須佐にはまったくといっていいほど脅しの効果はなかった。

「何!？」

「いや、あんたらの追剥の点数。手口は古典的、凄んでも殺気は無い、おまけに三人で囲んでるくせに一人しか刀を突きつけてない…  
…ちよつと考えただけでもこれほど粗が目立つ杜撰な手口」

「……………」

盗賊達は怒りで今にも爆発しそうだった。獲物と思っていた男に、自分達より下に見ていた男が自分達を見下している。怒らないはずがなかった。

「まあ本来なら零点でもいいんだけど、こんなに下手糞な手口で堂々と追剥をやるうとするその精神に免じて十点だけやるよ」

それを解っているのか、あえて須佐はとどめと言わんばかりに彼らの怒りに油を注ぐ。

「ぶつ殺してやる！！！！」

怒り心頭に刀をかざしていた盗賊が須佐に切りかかり、他の盗賊達も刀を抜く。

あらかじめ刀を抜いていた盗賊と刀を抜いてもいない須佐、よほど力に差がなければ須佐が間に合うはずはなかった。

しかし、盗賊はそのまま突けばいいものを切り殺す為に刀を頭上に上げ振り下ろそうとする。

「遅えよ」

須佐は刀を上段に構えた為ながら空きになった盗賊の胴体に蹴りを入れる。

須佐の蹴りはまるで吸い込まれるように力強く、的確に男の鳩尾に突き刺さる。

人間の体には急所と呼ばれる場所が存在する。急所は鍛える事が出来ず僅かな力でも十分に人体を行動不能に陥らせる。例えば、金的

金的をぶつければ、腹に激しい痛みを感じて動けなくなる。男なら誰しもが一度は経験するだろう。

それだけ人間は急所に弱い。鳩尾もその急所の一つ。盗賊の痛みは推して知るべし。

「ぐうげええ」

盗賊は激痛に悶えるが、須佐の足が未だ鳩尾に突き刺さったままの為身動きも取れなかった。

「あがつ…かはつ……」

須佐が足を盗賊から引き抜くと、盗賊はその場に崩れ去る。

「兄貴!!」

周りを囲んでいた二人の盗賊は、予想外の事態に須佐に刀で切りかかるのではなく崩れた盗賊に意識を向けてしまう。

「他人の心配するより、手前の心配をしな」

盗賊がその声に意識を須佐に戻すが既に手遅れだった。

一人の顔面に須佐の肘がめり込む。これで二人目。倒れた盗賊の顔は鼻の周りがへこんでいた。

「ひっ」

流石に残された盗賊も須佐の強さに気が突き、逃げ出そうとする。

「だから、逃がさねえって」

結局、最後に残った盗賊も逃げ出す前に須佐に顔をつかまれてしまった。

「頼む、やめてくれ。悪かった、もう二度と追剥はしない。助けてくれ」

なまじ自分の仲間がやられている所をみてしまっている為、恐怖も大きかったのか盗賊は必死で命乞いをする。しかし、まるで関係ないと言わんばかりに盗賊の顔をつかむ手に力が籠って行き、それと同時に人差し指、中指、薬指が輝きだす。

「ちよつ、た…頼むよ。助けてくれ。お願いだ!!」

盗賊の命乞いを無視して、須佐の参指から放たれた光はその輝きを増していく。

そして、輝きが最高潮に達し、

「輝指掌!!」

須佐の一声で輝きは志向性を持った衝撃波となり盗賊の脳を駆け抜ける。

「ぎゃあああああああああああ」

盗賊は輝指掌の衝撃波をまともに受け、吹き飛ばされる。

「暫くは脳が麻痺して動けねえだろうがそのうち回復するだろうよ。まあ聞こえちゃいないとは思うがね」

須佐の視線の先では盗賊が白目をむき、泡を吹きながら小刻みに痙攣していた。

三人の盗賊全員を倒し終わると須佐は急に後ろに振り向く。

「で、さつきからこつちをみてるあんた達は一体何者だ?」

「ひゃん」

「桃香様!?!」

須佐の声に驚いたのか桃色の髪をした女性が派手にこける。

「大丈夫ですか？ 桃香様」

同じく桃髪の女性の隣にいた黒髪の女性が彼女を助け起こす。

「お姉ちゃん、驚きすぎなのだ」

桃髪の女性の隣にいた少女が転んでしまった彼女を笑った。

「うっ、笑うなんてひどいよ鈴々ちゃん。」

助け起こされた桃髪の女性はふて腐れた様に文句を言う。

「あの、結局どちら様なんでしょうか？」

こっそり後ろから見られていた事もあって警戒した須佐だったが、  
今ので完全に毒気が抜かれてしまっていた。

「はい。えっと……あなたの力を貸してください、天の御使い様！  
！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9997f/>

---

極東無双

2010年10月10日17時30分発行